

## 教育学研究科修士課程 生涯教育専攻（2015年度以降 第1学年次入学者適用）

区分	科目名称	単位数	1) 知識		2) 研究技能		3) 独創性		4) 総合力	科目概要（2022年度シラバスより）
			①教育学領域に関する高度な専門的知識をもち、充分な実践技能を身につけている	②近接関連領域に関する高度な専門的知識を持っている	①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている	②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている	①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている	②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている	①当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている	
専攻科目	生涯教育原論特殊研究 1	2	○	○	○		○			東日本大震災がもたらした教育学的意味は、さきの戦争が戦後教育学にもった意味に匹敵するほどに重いものだ。それは私たちがいまここで未曾有の切迫した教育課題に直面していることを明らかにした。私たちの時代は、災害もまた科学技術と経済と政治とが複雑に連関しており、その結果、地球的規模での破局＝カストロフィを生みだす時代となってしまった。災害も戦争も、そして環境汚染も疫病も飢饉も、局地的な破壊にとどまらず、地球的規模で全人類と生命の絶滅を引きおこす時代となってしまった。そのため教育の場は人類と自然との新たな契約を生きるための啓蒙の場となる必要がある。このとき終局の災厄（絶滅）から照らし返された教育は、近代の国民国家とともに誕生した国民を形成するための学校教育ではなく、人類史においてはじめて人類が「統合された人類」となるための教育となるだろう。このとき市民の形成は国民形成の別名ではなく、世界市民の形成を意味するものとなるだろう。暗い破局を前にした人類の連帯、これはかつて冷戦期においても、核兵器使用による人類滅亡という恐怖がもたらした消極的な人類統合の現代版と言えなくもないが、破局の必然性についての説得力は、災厄の領域の拡大と深化によってかつて以上に強力である。前半は山名淳・矢野智司編『災害と厄災の記憶を伝える－教育学は何かができるか』を読み、後半は世界市民形成に関わるテキストを選択して読む。 ※2021年度シラバス
	生涯教育原論特殊研究 2	2	○	○	○		○			私たちが生きているこの時代は、どのような時代なのだろうか。そして、この時代の教育についての思考は、どのような形を取るべきなのだろうか。経済のグローバル化の進展による市場経済の一元化、AIの進化による産業構造の変革、ネット時代における情報環境の急速な発展による情報・メディア・知識・記憶の在り方の変容、遺伝子レベルでの生命操作による人間の加工と編集の現実化、そしてグローバル化への反動としての不寛容な宗教原理主義と狭隘なナショナリズムの台頭、アントロポセン時代における人類による地球環境の破壊と歴史上例を見ないレベルの経済格差、さらに戦争やテロや災害による多数の難民と移民の出現……そしてコロナ禍。私たちはいま人類史＝世界史の臨界点に立っていることはまちがいない。本授業では、「私たちはどこから来たのか 私たちは何者か 私たちはどこへ行くのか」という問いを念頭におきつつ、以上のような課題意識に立ちながら、近代の教育を支えてきた一連の二項対立の思考法を捉え直し、教育学的思考によって教育の世界が新たに開かれるときを、つぎの三つのアプローチによって立体的に明らかにする。そうすることによって、今日の教育が直面している課題を原理的に明らかにし、その課題に回答する今日の教育学的思考の新たな形の構築を試みる。①他者と出会う臨床教育学：他者との向かいあい方の臨時的な考察を通して、ケア・教育・保育の在り方を提示し、強い／弱い、生者／死者、国民／非国民、大人／子ども、といった二項対立を主体的実践的に捉え直す。②人間の条件を考える教育人間学：言語・物語・感情・直観・信頼といった人間を象る基本的な諸事象の探究から人間とは何かを論じ、言語／言語の外部、人間／自然、人間／動物、といった二項対立を人間学的に捉え直す。③人間と自然の関係と捉え直す生命原理：ベルクソン・バタイユ・ドゥルーズ＝ガタリ・西田幾多郎の哲学原理から教育事象を捉え直し、新たな教育の形を構想することで、人間／自然、人間／動物、といった二項対立を原理的に捉え直す。
	生涯教育心理学特殊研究 1	2	○		○			○		子どもの自主性についての考え方を概観し、それを育む親や教師の役割について考察を深める。家庭・園・学校における親・保育者・教師と子どもとの具体的なコミュニケーション場面をとりあげ、かかわりのなかで働く心理を捉えていく。 ※2021年度シラバス
	生涯教育心理学特殊研究 2	2	○		○			○		子どもの自主性についての考え方を概観し、それを育む親や教師の役割について考察を深める。家庭・園・学校における親・保育者・教師と子どもとの具体的なコミュニケーション場面をとりあげ、かかわりのなかで働く心理を捉えていく、
	生涯教育制度学特殊研究 1	2	○		○			○		教育の階層差をめぐって ※2021年度シラバス
	生涯教育制度学特殊研究 2	2	○		○			○		教育の階層差をめぐって
	生涯教育方法学特殊研究 1	2		○	○			○		実際の調査データを用いて、統計分析手法によりデータを分析し、そこから判断する結果やそれらをまとめる手法を学ぶ。 ※2021年度シラバス
	生涯教育方法学特殊研究 2	2		○	○			○		実際の調査データを用いて、統計分析手法によりデータを分析し、そこから判断する結果やそれらをまとめる手法を学ぶ。
	生涯教育評価論特殊研究 1	2			○	○		○		教師が子どもたちに適切な指導を行うためには、的確に評価することが必要である。指導要録において「目標に準拠した評価」が導入されたこともあり、教師の評価力の必要性は、ますます高まっている。そこで本科目では、教育評価に関する基本的な概念の理解を深めるとともに、授業に使える評価のスキルを身につけることをめざす。 ※2021年度シラバス
	生涯教育評価論特殊研究 2	2	○		○			○		教師が子どもたちに適切な指導を行うためには、的確に評価することが必要である。指導要録において「目標に準拠した評価」が導入されたこともあり、教師の評価力の必要性は、ますます高まっている。そこで本科目では、教育評価に関する基本的な概念の理解を深めるとともに、授業に使える評価のスキルを身につけることをめざす。
	生涯教育原論演習 1	2			○			○		近年、少子化の進行により、子どもの存在価値や子育て、家族のあり方が問われている。本講義では、生涯学習のスタートとなる子どもの心身の発達を踏まえた就学前教育・カリキュラムのあり方、評価の方法に関する国内外の先行研究および先進的な取り組みを概観するとともに子育て支援政策の方向性を展望する。 ※2021年度シラバス
	生涯教育原論演習 2	2			○			○		近年、少子化の進行により、子どもの存在価値や子育て、家族のあり方が問われている。本講義では、生涯学習のスタートとなる子どもの心身の発達を踏まえた就学前教育・カリキュラムのあり方、評価の方法に関する国内外の先行研究および先進的な取り組みを概観するとともに子育て支援政策の方向性を展望する。
	生涯教育心理学演習 1	2	○					○		近年の教育界においては、「主体的、対話的な深い学び」を実現するための「アクティブラーニング」が声高に唱導され、その語を冠した実践書が溢れかえっている。しかしながら、そうした教育技術の理論的背景の理解なくしては、眼前の学習者に適合した学習機会の提供や学習環境の整備は期待できない。本講では、文献講読を通して、まず学習科学の基本的事項を成す認知心理学の諸概念について理解を深める。そして、問題解決型学習・問題基盤型学習・協調学習の3つの学習形態を取り上げ、それぞれの具体例を参照しつつ実践の留意事項について考察していく。
	生涯教育心理学演習 2	2	○					○		前半部は、生涯発達に関する諸理論を理解した上で、自分をとらえなおす作業を行う。その上で、生涯発達について議論を深める。後半部は、いのちの学び方について、指導案を読み解きながら、改善点を検討し、いのちの学び方の授業実践を行う。

区分	科目名称	単位数	1) 知識		2) 研究技能		3) 独創性		4) 総合力		科目概要 (2022年度シラバスより)
			①教育学領域に関する高度な専門的知識をもち、充分な実践技能を身につけている	②近接関連領域に関する高度な専門的知識を持っている	①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている	②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている	①専門領域ならびに近接する関連領域の独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている	②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている	①当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている		
専攻科目	生涯教育制度学演習 1	2	○			○		○			受講生各自が設定する問題意識にしたがって、いかなる方法が研究のテーマに沿うのかを理解し、それに基礎資料を符合させる作業をおこなう。 ※2021年度シラバス
	生涯教育制度学演習 2	2	○			○		○	○		受講生各自が設定する問題意識にしたがって、いかなる方法が研究のテーマに沿うのかを理解し、それに基礎資料を符合させる作業をおこなう。
	生涯教育方法学演習 1	2		○		○		○	○		実践研究を行うに際し、調査データの収集、分析、まとめが必要となる。具体的な統計データを用いて、SPSSによる統計分析、また分析結果の解釈と考察のしかたを学習する。学習では、実際にSPSSを使って演習形式で進める。
	生涯教育方法学演習 2	2		○		○		○	○		教育改革と学校教育の課題
	生涯教育研究指導	1						○	○		修士課程 2 回生は論文の進捗状況を適宜詳細に報告する。修士課程 1 回生も各自の研究計画を発表し、その確立を図る。なお、博士後期課程学生の発表も適宜はさみ、示範効果をねらう。
関連科目	教育哲学特殊研究 1	2		○	○			○			京都学派の哲学の特徴をまず大枠で捉え、西田幾多郎の弟子であった木村素衛、田邊元の弟子であった森昭の教育思想はもとより、一見すると新カント学派であったりあるいは生の哲学の立場であったりする当時の代表的な教育学者篠原助市や長田新、国家主義的な文教政策を主導した京都帝国大学出身で文部省役人の近藤壽治や竹下直之といった人物、京都学派の教育学の批判者ともいべき城戸樺太郎・山下徳治・海後勝雄といった教育科学運動の教育学者たち、彼らの教育思想がいずれも京都学派の哲学的思考と緊密に連動していたことを論証する。外国の教育思想の単なる「送迎・展示」にすぎないと見られてきた、そして教育学から教育科学へという単線の発展モデルで語られてきた日本の教育思想史を、独自の課題と論理を担った「自覚の教育学」の運動として捉え直すことで、日本の教育学説史の書き換えに挑む。 ※2021年度シラバス
	教育哲学特殊研究 2	2		○	○			○			教育哲学特殊研究 1 H の継続である。教育哲学特殊研究 1 H では、京都学派の哲学の特徴をまず大枠で捉え、西田幾多郎の弟子であった木村素衛、田邊元の弟子であった森昭の教育思想はもとより、一見すると新カント学派であったりあるいは生の哲学の立場であったりする当時の代表的な教育学者篠原助市や長田新、国家主義的な文教政策を主導した京都帝国大学出身で文部省役人の近藤壽治や竹下直之といった人物、京都学派の教育学の批判者ともいべき城戸樺太郎・山下徳治・海後勝雄といった教育科学運動の教育学者たち、彼らの教育思想がいずれも京都学派の哲学的思考と緊密に連動していたことを論証した。教育哲学特殊研究 2 H では、昨年出版した拙著『京都学派と自覚の教育学』（勁草書房）での成果をもとに、外国の教育思想の単なる「送迎・展示」にすぎないと見られてきた、そして教育学から教育科学へという単線の発展モデルで語られてきた日本の教育思想史を、独自の課題と論理を担った「自覚の教育学」の運動として捉え直すことで、日本の教育学説史の書き換えに挑む。
	教育史特殊研究 1	2		○	○			○			「テキストの外部は存在しない」と言われるように、私たちは言語の世界で思考している。しかし、思考は多義的であり、与えられるテキストも多義的であり、そこからさらに多様な解釈が生まれる。それらを吟味することで、人間の思考の歩みを歴史的にとらえることができる。一方的な講義とならないように、各回の担当を決めて、指定テキストの該当部分のレジュメの発表に基づき、質疑応答するかたちで進めていく。
	教育史特殊研究 2	2		○	○			○			現代日本の教育は、近代以前の長い歴史とユニークな文化を背景としたものでありながらも、19世紀半ば以降、近代化の道を選択し、ヨーロッパの教育と文化の移入に努めてきた影響は無視できない。しかし、日本が近代化を開始した時期、ヨーロッパで主流であったのはいわゆる啓蒙思想であり、そこにはヨーロッパの宗教的伝統と対立する要素があった。ゆえに、近代日本が移入したヨーロッパ文化は奇妙なことにヨーロッパの伝統と乖離する面があった。本科目は、この問題を考えるために、「近代教育学の祖」と称されてきた17世紀チェコの思想家コメニウスの事例に焦点を当て、教育の近代化過程を歴史的に振り返り、現代における教育の可能性を考える。一方的な講義とならないように、各回の担当を決めて、指定テキストの該当部分のレジュメの発表に基づき、質疑応答するかたちで進めていく。 ※2021年度シラバス
	教育心理学特殊研究 1	2	○		○			○			子どもの自主性についての考え方を概観し、それを育む親や教師の役割について考察を深める。家庭・園・学校における親・保育者・教師と子どもとの具体的なコミュニケーション場面をとりあげ、かかわりのなかで働く心理を捉えていく。 ※2021年度シラバス
	教育心理学特殊研究 2	2	○		○			○			子どもの自主性についての考え方を概観し、それを育む親や教師の役割について考察を深める。家庭・園・学校における親・保育者・教師と子どもとの具体的なコミュニケーション場面をとりあげ、かかわりのなかで働く心理を捉えていく。 ※2020年度シラバス
	学校教育特殊研究 1	2	○		○			○			学校教育の主たる指導領域である「学級経営」「授業運営」について講義を受け、その後、受講生を交えて疑問点や今後の指導のあり方を議論する。その発展として、事例分析を通して教師としての力量形成を促進する。
	学校教育特殊研究 2	2	○		○			○			これまで授業研究の一環として授業を多角的・多面的に分析する手法（授業分析法）が数多く開発されてきた。これに伴い、授業の成否に関わる様々な要因の具体が明らかにされてきている。この講義では、これまでに開発されてきた授業分析の手法について解説する。具体的には、行動科学の発展に伴う「量的」なアプローチ手法、認知心理学の発展に伴う「質的」なアプローチ手法のそれぞれについて取り上げ、その成果と課題について検討する。
	社会教育特殊研究 1	2	○		○			○			学校教育と社会教育の連携、教育行政と一般行政の連携、教育と福祉の連携など、教育実践での「連携」のあり方が課題となっている。本授業では社会教育概念の理解を前提として、社会教育の領域における連携に関連したさまざまなトピックについて理解を深める。拡大する連携・協働の実情を把握し、社会教育の独自性について改めて考察する。
	社会教育特殊研究 2	2	○		○			○			学校教育と社会教育の連携、教育行政と一般行政の連携、教育と福祉の連携など、教育実践での「連携」のあり方が課題となっている。本授業では社会教育概念の理解を前提として、社会教育の領域における連携に関連したさまざまなトピックについて理解を深める。拡大する連携・協働の実情を把握し、社会教育の独自性について改めて考察する。 ※2021年度シラバス
	児童教育特殊研究 1	2	○		○			○			保育のねらいや目標、活動や保育内容との関係、幼児の発達や保育方法と保育内容との関係などについて論じ、それらを踏まえた保育内容の再構築について考究する。 ※2021年度シラバス
	児童教育特殊研究 2	2	○		○			○			人間関係は、教育活動の基盤となる実践的且つ総合的な領域である。本講義では、就学前教育における人と関わる力の育成をテーマとして文献購読及び全体討議を行い、人間関係に関する諸理論について理解を深める。保育現場を対象としたフィールドワークや保育内容の分析を通して、幼児の人と関わる力の育成の着目し、保育者の専門性としての保育構成力について学ぶ。

区分	科目名称	単位数	1) 知識		2) 研究技能		3) 独創性		4) 総合力		科目概要 (2022年度シラバスより)
			①教育学領域に関する高度な専門的知識をもち、充分な実践技能を身につけている	②近接関連領域に関する高度な専門的知識を持っている	①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている	②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている	①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている	②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている	①当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている		
関連科目	図書館学特殊研究 1	2		○	○	○	○				1 受講生の図書館体験、実践を踏まえ、『インフォメーション・パワーが教育を変える!』をテキストとして、知識の体系化を図っていく。 具体的には、学校図書館が児童生徒や教職員に対してどのように支援していくのかに焦点を当てる。なお、米国や日本の学校図書館を把握するために、DVDの視聴も行う。 2 学校図書館分野の先行研究を通して、研究方法や分析手法についても取り上げる。 ※2017年度シラバス
	図書館学特殊研究 2	2		○	○	○	○				1 受講生の図書館体験、実践を踏まえ、『インフォメーション・パワーが教育を変える!』をテキストとして、知識の体系化を図っていく。 具体的には、学校図書館が児童生徒や教職員に対してどのように支援していくのかに焦点を当てる。なお、米国や日本の学校図書館を把握するために、DVDの視聴も行う。2 学校図書館分野の先行研究を通して、研究方法や分析手法についても取り上げる。
	健康教育特殊研究 1	2		○	○		○				
	健康教育特殊研究 2	2		○	○		○				
	文学教育特殊研究 1	2		○	○		○				
	文学教育特殊研究 2	2		○	○		○				
	環境教育特殊研究 1	2		○	○		○				
	環境教育特殊研究 2	2		○	○		○				
	法教育特殊研究 1	2		○	○		○				《法学》に関する文献や裁判例の読解やグループワーク、個人報告をおこなう予定である。 ※2021年度シラバス
	法教育特殊研究 2	2		○	○		○				《法学》に関する文献や裁判例の読解やグループワーク、個人報告をおこなう予定である。
	国語科教育特殊研究	2	○			○	○				この講義では、実際の小学校で実践された国語科授業を取り上げ授業分析を行い、その特徴について検討していく。 「活動や発問」「授業の流れ」「教師の助言や対応」などを細かく分析することで、その授業の良い点、悪い点について考えていく。 同じ授業に関して、全体でディスカッションを行い、その後個人でその授業の分析・報告を行う。 ※2021年度シラバス
	算数・数学科教育特殊研究	2	○			○	○				理論と実践事例を検討することから、算数・数学科教育の実践のあり方について考察する。
	理科教育特殊研究	2	○			○	○				近年、科学的リテラシーの必要性、より一層の理科教育、科学教育の充実が求められている。それには、最新の理科教授・学習論、カリキュラム理論などの多くの研究成果と授業実践研究とのよりよい関係が重要となってきている。この講義では、理科教育、科学教育に関する論文その他を読み解くことで、最新の理科教育の動向や理科学習論の潮流を学んでいく。あわせて、現在において、よく利用されている理科授業や理科教育における研究手法についても取り上げる。これらを通して、研究者に求められる理科教育学的視点や資質を培う。 ※2021年度シラバス
	社会系教科教育特殊研究	2	○			○	○				社会系教科教育における理論と実践の関係を文献などから考察する。
	特別支援教育特殊研究	2	○			○	○				日本の障害児教育について歴史的に概観し、現在の特別支援教育制度について理解する。 障害児教育をめぐる世界的動向について、その制度や実践について学ぶ。 ※2021年度シラバス
	人権教育特殊研究 1	2	○			○	○				可能な場合は企画段階から関わり、計画立案→授業実施→検証
	人権教育特殊研究 2	2	○			○	○				可能な場合は企画段階から関わり、計画立案→授業実施→検証 ※2021年度シラバス
	消費者教育特殊研究 1	2		○	○		○				
消費者教育特殊研究 2	2		○	○		○					